

日本のお墓を

「石から樹木」に変えたエンディングセンターが
イノベーション第2弾「エリアを越える」

全国版「**桜葬**」**墓地**

「墓地」と「死後サポート」がセット

おひとりさまを、一人にしません！

孤独死よ、さようなら！

来世は、東京永住もいいもんだ！

来世は、大阪永住もいいもんだ！

来世は、^{ファミリー}「**桜家族**」だ！

■お問い合わせ先

認定NPO法人エンディングセンター

町田事務所（木曜定休） TEL：042-850-1212（電話受付10：00～16：00）

関西事務所（火曜定休） TEL：072-669-9131（電話受付10：00～16：00）

↓↓↓ 詳細は次のページへ ↓↓↓

エリアを越える！ 全国版「桜葬」墓地

エンディングセンターは、日本のお墓の文化が、「石」一辺倒から「樹木」という選択肢をもつことに、大きな貢献をいたしました。

そしてこの秋、第2弾のイノベーション(変革)として「エリアを越える！」を提案します。

認定 NPO 法人エンディングセンターの理事長・井上が各地で講演し、「跡継ぎ不要」で、ぬくもりのある最期をめざした「死後のサポート」まである「桜葬」の話をする、自分の住んでいる近くにはそういったシステムがないことに落胆する人が多くなっています。

また、お墓の近くの人でさえ、頼めるような親戚がなくて「遺骨を持ってお墓まで埋葬に行けない」という人も増えています。

そこで、日本の各地にお住まいの方が、エンディングセンターの桜葬墓地（東京・町田、大阪・高槻）をご契約いただけるような積極的なシステムを提供することにいたしました。

また、遺骨を持ってお墓まで来られない人のためにも、遺骨郵送サービス【桜便】のシステムを開始します。

各地にお住まいの「おひとりさま」や「子どもがいない、子どもを頼れない人」、「ご夫婦」、「ご先祖様」や「ペット」と一緒など、組み合わせは自由です。次のような方法で遺骨を運び、埋葬いたします。

日本各地にお住まいの方でも大丈夫！

生前に桜葬墓地の契約と遺骨の移送方法を決めておく。

下記の1～3に対して①か②を選びます。

1. 遺体の引取・葬儀
 - ①地元の縁者が行う
 - ②エンディングセンターに依頼する（死後サポート契約）
2. 遺骨の移送・埋葬
 - ①地元の縁者が、エンディングセンター「桜便」キットを使用し「セキュリティゆうパック」で返送し、エンディングセンターが埋葬する
 - ②エンディングセンターに依頼する（死後サポート契約）
エンディングセンターのスタッフが遺骨を運び、埋葬まで行う
3. 死後事務等
 - ①地元の縁者が行う
 - ②エンディングセンターに依頼する（死後サポート契約）

お墓は下記の「桜葬」から選ぶ

■東京都町田市・町田いずみ浄苑内 エンディングセンター桜葬墓地



「詩桜里」(しおり) 1人 40万円～



「木もれ陽」(こもれば) 1人 20万円



注2 エンディングセンター「お墓のシェアハウス」

桜葬の1区画(4人用)を、シェアして入るタイプのお墓。近々ニュースリリースで詳細をお届けします

桜の里「あさ陽の丘Ⅱ・お墓のシェアハウス」^(注2) 1人 25万円

桜の里「あさ陽の丘Ⅰ」1人 50万円～

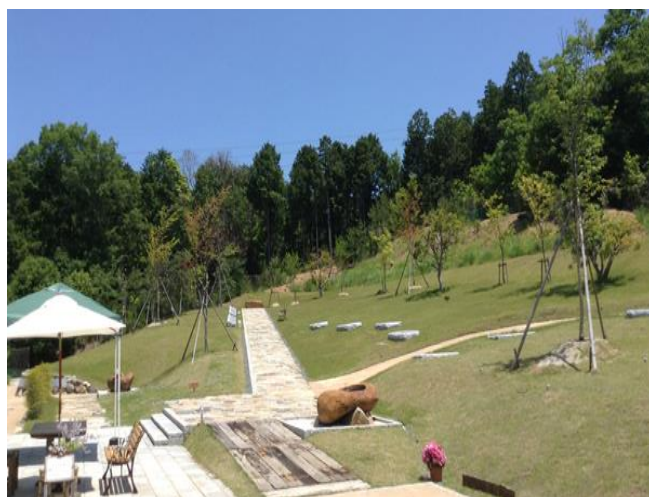
桜の里「あさ陽の丘Ⅱ」1人 70万円～

桜の里「森の精」1人 70万円～

■大阪府高槻市・神峯山寺 エンディングセンター桜葬墓地



共同区画 ^{そら}「宙への庭」1人 20万円



個別区画「空の音」ほか、1人 40万円～

ファミリー 「桜家族」

おひとりさまにも優しい、墓を核とした共同性

桜の花の下で、皆が集って「桜葬メモリアル」（合同祭祀）が催され、ぬくもりのある最期のためのエンディングサポートがある。「桜家族」のような絆を育んでいます。

■エンディングセンターの理念

- ・尊厳ある生と死と葬送の実現をめざす（終活講座、フォーラム、語りあいの会）
- ・自然に親和的なお墓を広める（「桜葬」墓地）
- ・墓を核とした結縁（家族を超えた絆づくり）
- ・墓友活動（「もう一つの我が家」で展開するサークル活動等）
- ・家族に代わるサポートシステム（生前サポート、死後サポート＜葬儀・死後事務委任＞）

あなたが生きたこと 桜は忘れない

「家族の永遠性」が見込まれない時代に、
「自然の永遠性」に身を委ねる

死をも越えた将来、自然に包まれる
という感覚 スピリチュアリティ

桜は、小さいころから入学式など、人生の記念日を見届けてきた



桜葬メモリアル

（合同祭祀）

家族がいなくても、
家族が絶えても、
同じ墓に入る者同士、
皆から儀礼を
してもらえると
いう一体感と安心感。

エンディングセンター

「もう一つの我が家」



みんなでご飯を食べる、
時間を忘れておしゃべりする、
ぐちを言う、

こんな当たり前なこと、誰もが
できているわけではない。

心の安らぎ・対話・相談・
身体健康維持

仲間のお別れ会のため

「もう一つの我が家」がある。

